

2017年2月15日
公益財団法人イオン環境財団

第5回「生物多様性日本アワード」公募開始について

公益財団法人イオン環境財団（理事長 岡田卓也 イオン株式会社名誉会長相談役、以下当財団）は、本年2月15日より第5回「生物多様性日本アワード」の公募を開始します。

現在、生物多様性の保全と持続可能な利用は、気候変動と並び、地球環境の大きな課題となっています。日本においては長い間、人と自然の共生が維持されており、日本国内のローカルな価値や知見を守ること、また日本独自の方法論の展開や実践が必要とされています。

当財団は、2010年に名古屋市で生物多様性条約第10回締約国会議（COP10）が開催されるのに先立ち、2009年に環境省との共催で国内賞「生物多様性日本アワード」（以下、本アワード）を創設しました。また2010年には当財団の設立20周年を記念し、国際賞「The MIDORI Prize for Biodiversity（生物多様性みどり賞）」を創設しており、以来、本アワードと交互に隔年で実施しています。

本アワードは、日本国内の団体・組織・企業・個人を対象に「生物多様性の保全と持続可能な利用に関する取り組み」を広く公募し、優秀な事例を顕彰するものです。これまでNPOや企業、学校など23団体の環境活動を顕彰してきました。2015年に実施した第4回では、中学生の活動が優秀賞として顕彰されるなど、次代を担う若い世代にも生物多様性保全に対する取り組みが広がりを見せつつあります。

当財団はこれからも、COP10において採択された「愛知ターゲット」や2011年にスタートした「国連生物多様性の10年」を推進するとともに、いのちあふれる美しい地球を次代に引き継ぐため、様々な活動に取り組んでまいります。

第5回「生物多様性日本アワード」概要

公募期間：2017年2月15日（水）～5月10日（水）

応募資格：日本国内の団体・組織・企業・個人

（複数の団体・組織による共同の取り組みを含む）

対象活動：生物多様性の保全、生物多様性の持続可能な利用、生物多様性の普及・啓発

主催：公益財団法人イオン環境財団

後援：環境省、国連生物多様性の10年日本委員会

顕彰内容：グランプリ1件 表彰状、副賞200万円

優秀賞4件 表彰状、副賞100万円

授賞者フォーラム：＜日時＞9月26日（火）14：00～17：00

＜場所＞国際連合大学 ウ・タント国際会議場

※その他詳細は、当財団ホームページ（<http://www.aeon.info/ef>）をご参照ください。

ご参考

第5回「生物多様性日本アワード」審査委員（五十音順）

委員長	岡田 卓也	公益財団法人イオン環境財団 理事長
委員	赤池 学	ユニバーサルデザイン総合研究所 所長
委員	岩槻 邦男	東京大学 名誉教授
委員	鬼頭 秀一	東京大学 名誉教授・星槎大学 副学長
委員	黒田 大三郎	公益財団法人地球環境戦略研究機関 シニアフェロー
委員	香坂 玲	東北大学大学院 環境科学研究科 教授
委員	南川 秀樹	公益財団法人イオン環境財団 理事・環境省 元事務次官

歴代受賞プロジェクト一覧（優秀賞の順序は団体名の五十音順）

回／年度		受賞プロジェクト名	実施団体名	活動実施地域	実施団体の所在地 (企業の場合は本社所在地)
第1回 2009年	グランプリ	地域企業との協働による谷津田の保全	NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店	茨城県	茨城県他
	優秀賞	エコロジカルネットワークの研究と実践	鹿島建設株式会社	全国	東京都
		「コウノトリ育む農法」とコウノトリ共生米	コウノトリ育むお米生産部会／JAたじま／NPOコウノトリ湿地ネット／豊岡市／兵庫県豊岡農業改良普及センター	兵庫県	兵庫県
		「ボルネオはあなたが守る！」キャンペーン	サラヤ株式会社	マレーシア 全国	大阪府
		知床の生物多様性に関する取組	財団法人知床財団	北海道	北海道
		生物多様性保全を含む10の調達指針	積水ハウス株式会社	全国	東京都
		「生物多様性について考えてみませんか」定期の取り扱い	中日信用金庫	愛知県	愛知県
「農」に着目した地域における生物多様性の保全のための活動	NPO法人農と自然の研究所	福岡県	福岡県		
第2回 2011年	グランプリ	湿地環境の指標種としての雁類の保護およびその生息環境の保全・復元と人間との共生をめざす活動	日本雁を保護する会	宮城県	宮城県
	優秀賞	茅場の保全から茅葺屋根まで ーヨシ原と共に生きるー	有限会社熊谷産業	宮城県	宮城県
		山梨県小菅村における多摩川源流大学を中心とした源流域の自然保全活動と教育活動	NPO法人多摩源流こすげ	山梨県	山梨県
		野田自然共生ファーム	株式会社野田自然共生ファーム	千葉県	千葉県
クマ保護管理事業	NPO法人ピッキオ	長野県	長野県		
第3回 2013年	グランプリ	津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興	NPO法人田んぼ	宮城県 岩手県	宮城県
	優秀賞	太平洋沿岸カツオ標識放流共同調査と一連の協働・普及啓発活動	味の素株式会社	西日本太平洋沿岸	東京都
		「竹紙(たけがみ)」の取り組み	中越パルプ工業株式会社	九州等他	東京都 富山県
		綾の照葉樹林プロジェクト	てるはの森の会	宮崎県	宮崎県
ネイチャー・テクノロジー創出のシステム構築	ネイチャー・テクノロジー研究会 (東北大学大学院環境科学研究科)	全国	宮城県		
第4回 2015年	グランプリ	エゾシカの先進的な資源的活用促進事業	一般社団法人エゾシカ協会	北海道	北海道
	優秀賞	「お茶で琵琶湖を美しく・お茶で日本を美しく」プロジェクトを通じた生物多様性保全の取り組み	株式会社伊藤園	全国	東京都
		水辺環境の保全・再生の実践と地域活性化	九州の川の応援団／九州大学鳥谷研究室	福岡県 韓国他	福岡県
		市民力を結集してドブ川を多様な生き物がすむ「ふるさとの川」に再生・復活	NPO法人グラウンドワーク三島	静岡県	静岡県
大谷ハチドリ計画	気仙沼市立大谷中学校	宮城県	宮城県		

歴代グランプリ受賞の取り組み

第1回（2009年）「地域企業との協働による谷津田の保全」

NPO法人アサザ基金／白菊酒造株式会社／株式会社田中酒造店

茨城県にある湖沼「霞ヶ浦」の水質悪化により絶滅に瀕していた浮葉性植物である「アサザ」を再生するため、1995年より流域の学校、住民、農林水産業、企業、行政等が連携して実施する市民型公共事業「アサザプロジェクト」を開始しました。湖各地での自然再生や里山の保全、外来魚駆除事業、バイオマス事業などで持続可能な循環型社会の構築に取り組み、100年後にトキの舞う湖をめざしています。



第2回（2011年）「湿地環境の指標種としての雁類の保護および

その生息環境の保全・復元と人間との共生を目指す活動」

日本雁を保護する会

ガン類の渡り経路を国際調査で解明し、国内生息地での調査結果を「ガン類渡来地目録」等にまとめ、保全・啓発・提言活動を実施しています。近年はその生息地である水田に注目し、ガン類の生息地復元と水田の生物多様性を活かし、農業との共生をめざす「ふゆみずたんぼ」の提唱・普及に取り組んでいます。水田の湿地機能への関心を高める「蕪栗沼・周辺水田」のラムサール条約湿地登録、ラムサールCOP10およびCBD・COP10での「水田の生物多様性に関わる決議」実現に貢献しました。



第3回（2013年）「津波に被災した田んぼの生態系復元力による復興」

NPO法人たんぼ

宮城県気仙沼をはじめ、塩竈、南三陸、岩手県陸前高田を中心に生態系の復元力を活用した自然農法のシステム（ふゆみずたんぼ）で津波被災地の田んぼの復興を実現しました。1,200名を超える多様なボランティアの参加により、手作業で田んぼの復興を試み、抑塩にも成功しています。また各地で、生物多様性、水質、土壌内の微生物の活性度調査などの科学的なモニタリング実施により現況を把握し、その結果、被災した年の秋から豊かな収穫を楽しむことができました。



第4回（2015年）「エゾシカの先進的な資源的活用促進事業」

一般社団法人エゾシカ協会

北海道においてエゾシカの適正な個体数管理が強く求められる中、シカ肉を適正に利用し、森林保全に還元する仕組みを作るため、2007年に厳しい衛生基準をクリアしている解体処理場の製品の認証制度を創設しました。2012年からは認証処理場で処理された肉の加工食品の認証制度をスタート。2015年からは肉の検査者となるシカ捕獲者の認証制度創設にも取り組んでいます。安心安全なシカ肉の流通により、森とエゾシカと人との適正な関係を築き、シカ肉の資源的価値の向上に貢献しました。

